

## まえがき

パンジャービー語またはパンジャープ語と呼ばれる言語は、パキスタンとインドにまたがるパンジャープ地方で話されている、インド・ヨーロッパ語族のインド語派に属する言語である。パンジャープという名称は、ペルシア語で「5」を意味する「パンジ」と、「水」を意味する「アープ」に由来し、インダス水系の「5つの川」が流れる大地を表す。パンジャープ地方の西側を中心にした大半の地域はパキスタンに属し、東側の一部がインドに属し、それぞれ州を形成している。パンジャービー語は、パキスタンでは、その人口のほぼ半数の約8千万人が母語とする最大の民族語である。インドでは、約3千万人の母語であり、憲法にも「主要言語の一つ」と記載され、パンジャープ州の公用語になっている。インドにおける日系企業の拠点が集中している首都デリーとハリヤーナー州にもパンジャービー語を母語とする人は多く、それぞれの地域の公用語の一つになっている。パンジャービー語の母語話者は、パキスタンとインドの両国内に限らず、移民として世界各地にコミュニティを形成している。英国だけでも約230万人、全世界では700万人以上のパンジャービー語の母語話者が、移民として存在すると推測される。

パンジャービー語は、パキスタンではアラビア系のシャームキー文字で表記され、インドではインド系文字の一つであるグルムキー文字で表記される。パンジャービー語を学習する人が利用できるように、それぞれの表記による入門書・文法書・語彙集・読本などが、日本でもこれまでに出版されている。本辞典は、グルムキー文字で表記した「パンジャービー語・日本語辞典」と「日本語・パンジャービー語小辞典」である。インド系文字の中ではデーヴァナーガリー文字の既習者が多いという学習環境を考慮し、「パンジャービー語・日本語辞典」の見出し語についてはデーヴァナーガリー文字による表記も併記した。

パンジャービー語は、他のインド・アーリア諸語と同じく、古い歴史を有し確固たる命脈を保持している民族語であるが、ウルドゥー語やヒンディー語などと比べると公用語としての歴史は浅く、標準パンジャービー語による教育の整備も現在その途上にあると言える。つづりの表記や標準文法などの統一については依然不確定な要素も多く、今後のパンジャービー語の教育・研究の発展とともに成果が得られるものと思われる。当然のことながら、日本においてはパンジャービー語の教育が公的な場所で行われることは稀で、その研究も緒に就いたばかりである。本辞典は、そのような歴史の中で、パンジャービー語の研究に携わるパンジャープ州内外の大学その他の研究機関や、個々の研究者たちの挙げた成果を参考にして編纂したものである。

本辞典の編纂については、その手順の構築に始まり、フォントの整備から版下の作成にいたるまで、その過程のすべてを東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の町田和彦氏にご尽力いただいた。これまで町田氏がインド系文字を用いる諸言語の辞書編纂のための基盤として開発された基本構造を生かし、例えば発音表記では、デーヴァナーガリー文字を用いたヒンデ

イー語の辞書における潜在母音の発音の有無の表記法をそのまま採用し、パンジャービー語特有の声調については新たに表記法を加えるなど、グルムキー文字表記によるパンジャービー語の辞書に適するプログラムを作成していただいた。また、文部科学省の COE 拠点形成・特別推進研究(COE)「アジア書字コーパスに基づく文字情報学の創成(GICAS)」(2001-2005 年度、研究代表:ペーリ・バースカララーオ氏)のプロジェクトの一つである辞書編纂研究会(主査:町田和彦氏)においては、内田紀彦氏、野口忠司氏、高島淳氏、峰岸真琴氏、星泉氏、澤田英夫氏に多くの面でご指導いただいた。本辞典の出版を担当していただいた三省堂編集部の柳百合氏には構成と内容について貴重な助言をいただいた。本辞典の出版のためにご尽力くださった方々に、心から感謝申し上げたい。

2015 年 3 月 23 日

岡 口 典 雄

## この辞典の使い方

本辞典は、「パンジャービー語・日本語辞典」と「日本語・パンジャービー語小辞典」から成る。ここでは、「パンジャービー語・日本語辞典」について、その使い方を説明する。「日本語・パンジャービー語小辞典」については、p.804 を参照されたい。

### I. 見出し語

#### 表記に用いる文字

見出し語は、パンジャービー語に固有の文字であるグルムキー文字で表記し、インド系文字の中ではグルムキー文字よりはるかに使用範囲の広いデーヴァナーガリー文字による表記も( )付きで示した。サンスクリット語・ヒンディー語・ネパール語などの学習でデーヴァナーガリー文字に慣れている人には、この二つの文字による表記が役に立つはずである。ただし、デーヴァナーガリー文字の子音字 घ, झ, ढ, ध, भ で便宜的に表記した部分のパンジャービー語の発音は有気音ではなく、声調を伴う音になる。また, ह で表記した部分の発音も、その多くが、子音 h の音を消失して、声調を伴った音になる。これらの部分については、デーヴァナーガリー文字をそのまま発音せず、声調記号を付けて転写した表記から発音の情報を得ていただきたい。

#### 配 列

本辞典における見出し語の配列は、次の原則に従っている。基本形35文字(1～35)・母音字(1～10)・母音記号(1～10)の順番を数字で示すと、以下のようになる。グルムキー文字の基本形は、母音字の基となる3文字(1～3)と子音字の32文字(4～35)から構成される。母音字の3種の基本形から10種の母音字が形成され、32種の子音字にはその上下左右に母音を表す記号(以下、母音記号)が付加される。同じ10種の母音を表すものであっても、母音字と母音記号では配列の順番が異なる。

#### 1. 基本形35文字

|    |        |    |        |    |        |    |        |    |   |
|----|--------|----|--------|----|--------|----|--------|----|---|
| 1  | ੳ      | 2  | ਅ      | 3  | ੲ      | 4  | ਸ (ਸ਼) | 5  | ਹ |
| 6  | ਕ (ਕ਼) | 7  | ਖ (ਖ਼) | 8  | ਗ (ਗ਼) | 9  | ਘ      | 10 | ਙ |
| 11 | ਚ      | 12 | ਛ      | 13 | ਜ (ਜ਼) | 14 | ਝ      | 15 | ਞ |
| 16 | ਟ      | 17 | ਠ      | 18 | ਡ      | 19 | ਢ      | 20 | ਣ |
| 21 | ਤ      | 22 | ਥ      | 23 | ਦ      | 24 | ਧ      | 25 | ਨ |
| 26 | ਪ      | 27 | ਫ (ਫ਼) | 28 | ਬ      | 29 | ਭ      | 30 | ਮ |
| 31 | ਯ      | 32 | ਰ      | 33 | ਲ (ਲ਼) | 34 | ਵ      | 35 | ੜ |

## 2. 母音字

母音字の基となる3文字(「1. 基本形35文字」の表の1～3)から形成される10種の母音字は、次の順番に配列される。

|   |   |   |    |   |   |   |   |    |   |
|---|---|---|----|---|---|---|---|----|---|
| 1 | ੳ | 2 | ਊ  | 3 | ਓ | 4 | ਅ | 5  | ਆ |
| 6 | ਐ | 7 | ਐਂ | 8 | ਇ | 9 | ਈ | 10 | ਏ |

### 3. 母音記号

子音字に付加される母音記号は、次の順番に配列される。○ は任意の子音字を表す。同じ子音字に母音記号が付いている場合は、下記の母音記号の順番に配列されることになる。

|   |       |   |                |   |         |   |          |    |           |
|---|-------|---|----------------|---|---------|---|----------|----|-----------|
| 1 | ○     | 2 | ○ <sup>⋈</sup> | 3 | ◌̣      | 4 | ◌̣̣      | 5  | ◌̣̣̣      |
| 6 | ◌̣̣̣̣ | 7 | ◌̣̣̣̣̣         | 8 | ◌̣̣̣̣̣̣ | 9 | ◌̣̣̣̣̣̣̣ | 10 | ◌̣̣̣̣̣̣̣̣ |

#### 4. 鼻音化記号・促音化記号・付加文字・下点付きの文字

パンジャービー語では、細部にわたり統一した基準を持つ辞書編纂法はまだ確立されていない。これら細部については、各辞書によって異なっているのが現状である。また辞書によっては、一貫した細部の規則がないままに作られている場合もある。本辞典では、編者の判断によって次の規則を立てている。

以下に示す、①鼻音化記号、②促音化記号、③付加文字、④下点付きの文字を含むつづりの配列は、これら4種の条件のあるものとならないものを同列に扱い、1.～3.の表中に示した母音字・子音字・母音記号の配列の原則に従って見出し語を配列した後、第二次的に適用するべき規則とする。パンジャービー語には、語の発音やつづり字の変種が多いため、①～④の条件の有無を第二次的な規則として設定することによって、それらの変種を互いに近い位置にまとめて示すことができるからである。

- ① 鼻音化記号(ティッピー ॅ , ビンディー ン )が付いている文字は、この記号が付いていない文字の前に配列する。例えば、कॅम は कम の前、ठाॅं は ठा の前になる。
- ② 促音化記号(アダク ँ )が付いている文字は、この記号が付いていない文字の後に配列する。例えば、पॅडा は पडा の後、दिॅली は दिली の後になる。
- \* ①+② 鼻音化または促音化の記号が付いている文字と付いていない文字の配列をまとめて例示すると、मॅउ, मउ, मँउ の順になる。

- ③ 下部に付加文字の付いた子音字 (  $\text{ṣ}$ ,  $\text{ḥ}$ ,  $\text{ḥ}$  など) は、発音上は潜在母音(母音記号を伴わない子音字が含んでいる短母音 **a**) を介さない、子音字と付加文字の二つの子音の結合を表す。しかし、その配列は、二つの子音字が横に並んだつづりと同列に扱う。二つの子音字が横に並んだものであるか、付加文字の付いた子音字であるかの違いを除けば同じつづりである場合には、付加文字の付いた子音字を後に配列する。つまり、付加文字付きの子音字は、その子音字と35番目の文字との組み合わせが終了した後や、10種の母音記号との組み合わせが終了した後の順番ではなく、潜在母音 **a** を介するつづりの直後に現れる。例えば、 $\text{ṣ}$  のつづりは  $\text{ṣa}$  や  $\text{ḥa}$  のつづりの後ではなく、 $\text{ṣa}$  のつづりの後、 $\text{ḥ}$  のつづりは  $\text{ḥa}$  や  $\text{ḥa}$  のつづりの後ではなく、 $\text{ḥa}$  のつづりの後に現れる。
- ④ 下点付きの文字 (  $\text{ṣ}$ ,  $\text{ḥ}$ ,  $\text{ḥ}$ ,  $\text{ḥ}$ ,  $\text{ḥ}$ ,  $\text{ḥ}$ ,  $\text{ḥ}$  ) は、下点の付かない元の文字と発音は異なるが、下点のない元の文字と同列に扱う。下点の有無を除けば同じつづりである場合には、下点のない文字を前、下点のある文字を後に配列する。例えば、 $\text{ṣa}$  は  $\text{ḥa}$  の後になる。

## 同つづりの見出し語

語源・語義を異にしながら同じつづりを持つ複数の見出し語 (homograph) は、<sup>1</sup>, <sup>2</sup>, <sup>3</sup>, ... などの数字を右肩に付け、区別して示す。語義解説中の → の後や語源情報の [ ] 内においても、これらの表記を用いて区別する。

## II. 発音表記

発音上の参考となる転写記号を、各見出し語の後の / / 内に示した。一つの見出し語について二通りの発音がある場合は、/ / の中を | で分割して、両音を併記した。/ / の中に示したこの発音表記は、国際音声字母(IPA)による表記ではなく、ラテン文字を主体とする一種の転写記号を使用した表記である。グルムキー文字で表記したパンジャービー語の発音表記としては、文字に対応した転写記号を用いた表記の方が国際音声字母による表記よりも理解しやすいからである。

転写記号の後には、カタカナ表記(カナ発音)を加えた。いうまでもなくカタカナ表記には限界があり、これはあくまで便宜的な表記である。日本語にはない有気音や反り舌音、またパンジャービー語特有の声調などはカタカナでは表記できず、鼻母音と鼻子音の区別などもできない。より正確な発音情報は、転写記号による発音表記を参照していただきたい。

グルムキー文字の字母・記号にはすべて名称があり、それらは見出し語として取り上げてある。文字の名称は、そのままその文字の読み(発音)になる。したがって、一つの文字の見出しであっても、その発音表記は文字の名称の発音表記(例えば、 $\text{ṣ}$  は **ka** ではなく **kakkā**)となる。

グルムキー文字の基本となる母音字・母音記号・子音字と、/ / 内に示した転写記号との対応関係は、「2. 母音字・母音記号・子音字」に示した表を参照していただきたい。その他の文字・記号類と転写記号との対応関係についても、以下に示した。

## 1. 声調と、発音されない潜在母音 a

母音記号を伴わない子音字は、本来、短母音 **a** を含んでいる。この短母音 **a** は、便宜的に潜在母音と呼ばれる。語中の潜在母音 **a** は、発音されたり発音されなかったりする。本辞典の転写記号による表記の中には、発音される潜在母音と発音されない潜在母音についての情報が含まれている。この潜在母音は、転写記号では **a** で表されるが、実際は、国際音声字母 **ə** で表示されるシュワー **schwa** と呼ばれる音で、唇に力を入れず小さな口の開きのまま発音する、あいまい母音の「ア」である。発音される音は、そのまま **a** と表示し、発音されない音は斜線を加えた **ǎ** で表示した。

本辞典には、さらにパンジャービー語の大きな特徴となっている2種類の声調 **tone** (高声調 [高降り声調] **high tone**, 低声調 [低昇り声調] **low tone**) についての情報も発音欄に示した。これらの表記には、次の記号を使用した。

**ǎ** は、発音されない潜在母音 **a** を表す。

**^** は、その音節が高声調(高降り声調) **high tone** を伴うことを表す。  
[高声調は、高降りアクセント **rising accent** とも呼ばれる。]

**∨** は、その音節が低声調(低昇り声調) **low tone** を伴うことを表す。  
[低声調は、低昇りアクセント **falling accent** とも呼ばれる。]

声調を伴う音節を表記する6種の文字 **ᳵ, ᳶ, ᳷, ᳸, ᳹, ᳺ** が、転写記号ではどのように表記されるか、「2. 母音字・母音記号・子音字」に示した表中の表示の読み方を予め解説しておく。

**ᳵ h, ^, ∨** とあるのは、**ᳵ h** **ᳵ ^** **ᳵ ∨** を一つにまとめて示したもので、**ᳵ** が子音 **h** のまま発音されるか、あるいは、**h** の音が消失し、高声調または 低声調として発音されることを意味する。

**ᳶ k∨, g∨, ^g** とあるのは、**ᳶ k∨** **ᳶ g∨** **ᳶ ^g** を一つにまとめて示したもので、**ᳶ** が低声調を伴う音節の初めの子音 **k** で発音されるか、あるいは低声調を伴う音節の初めの子音 **g**、または高声調を伴う音節の後の子音 **g** で発音されることを意味する。**᳷, ᳸, ᳹, ᳺ** についても、**ᳶ** の場合と同じ解釈をすればよい。

## 2. 母音字・母音記号・子音字

パンジャービー語の母音字・母音記号・子音字とその転写記号を、一覧表の形で以下に示す。表中の ◌ は、任意の子音字を表す。

母音記号を伴わない子音字は、単独の表記では潜在母音 **a** を伴って発音されるが、表中の子音字の転写記号では、**a** を取り除いた子音のみを(例えば, ੜ は **pa** ではなく **p** と)示してある。

|    |   |    |                |    |   |         |    |   |    |            |   |   |
|----|---|----|----------------|----|---|---------|----|---|----|------------|---|---|
| ਅ  | a | ਇ  | i              | ਉ  | u | ਏ       | e  | ਓ | o  |            |   |   |
| ਆ  | ā | ਈ  | ī              | ਊ  | ū | ਐ       | ai | ਔ | au |            |   |   |
| ੌ  | a | ਿ  | i              | ੁ  | u | ੇ       | e  | ੌ | o  |            |   |   |
| ਾ  | ā | ੀ  | ī              | ੂ  | ū | ੈ       | ai | ੌ | au |            |   |   |
| ਸ  | s | ਹ  |                |    |   | h, ^, ˇ |    |   |    |            |   |   |
| ਕ  | k | ਖ  | k <sup>h</sup> | ਗ  | g | ਘ       |    |   |    | kˇ, gˇ, ^g | ਙ | ṅ |
| ਚ  | c | ਛ  | c <sup>h</sup> | ਜ  | j | ਝ       |    |   |    | cˇ, jˇ, ^j | ਞ | ṇ |
| ਟ  | ṭ | ਠ  | ṭ <sup>h</sup> | ਡ  | ḍ | ਢ       |    |   |    | ṭˇ, ḍˇ, ^ḍ | ਣ | ṇ |
| ਤ  | t | ਥ  | t <sup>h</sup> | ਦ  | d | ਧ       |    |   |    | tˇ, dˇ, ^d | ਨ | n |
| ਪ  | p | ਫ  | p <sup>h</sup> | ਬ  | b | ਭ       |    |   |    | pˇ, bˇ, ^b | ਮ | m |
| ਯ  | y | ਰ  | r              | ਲ  | l | ਵ       |    |   |    | w, v       | ੜ | ṛ |
| ਸ਼ | ś | ਕ਼ | q              | ਖ਼ | x | ਗ਼      | ḡ  |   |    |            |   |   |
| ਜ਼ | z | ਫ਼ | f              | ਲ਼ | l |         |    |   |    |            |   |   |

ਵ は, **w** と **v** の両方の音の表記に用いられる。本辞典では、見出し語ごとに、比較的出现頻度の高いと思われるいずれか一方の音の転写記号で表記したが、実際には、どちらの音によっても発音される場合が多いので、その点注意していただきたい。

ਕ਼ q と ਲ਼ ḷ は、それぞれ ਕ k と ਲ l で代用され、下点の付かない後者の文字の発音になるのが普通である。本辞典でも、ਕ と ਲ は語のつづりには用いず、すべて क と ल で統一した。

各文字・記号の音韻の解説は、それぞれの名称を見出し語とする項目に記述したので、ここでは個々の発音の解説は省略する。以下に、母音と子音の音韻表のみを示す。

母音

|    |        |    |        |
|----|--------|----|--------|
|    | 前舌     | 中舌 | 後舌     |
| 狭  | ī<br>i |    | ū<br>u |
| 半狭 | e      | a  | o      |
| 半広 | ai     |    | au     |
| 広  |        | ā  |        |

子音      パンジャービー語には、有声有気音  $g^h, j^h, d^h, d^h, b^h$  はない。

|     |    |    | 両唇音            | 唇齒音 | 齒音             | 齒茎音    | 反り舌音            | 硬口蓋音           | 軟口蓋音           | 口蓋垂音 | 声門音 |
|-----|----|----|----------------|-----|----------------|--------|-----------------|----------------|----------------|------|-----|
| 閉鎖音 | 無声 | 無気 | p              |     | t              |        | t̚              |                | k              | q    |     |
|     |    | 有気 | p <sup>h</sup> |     | t <sup>h</sup> |        | t̚ <sup>h</sup> |                | k <sup>h</sup> |      |     |
|     | 有声 | 無気 | b              |     | d              |        | d̚              |                | g              |      |     |
| 破擦音 | 無声 | 無気 |                |     |                |        |                 | c              |                |      |     |
|     |    | 有気 |                |     |                |        |                 | c <sup>h</sup> |                |      |     |
|     | 有声 | 無気 |                |     |                |        |                 | j              |                |      |     |
| 鼻音  | 有声 |    | m              |     | n              |        | ɳ               | ɲ              | ɳ̥             |      |     |
| 側音  | 有声 |    |                |     |                | l      | ɭ               |                |                |      |     |
| 弾音  | 無声 |    |                |     |                |        | ɾ̥              |                |                |      |     |
| 顫動音 | 有声 |    |                |     |                | r      |                 |                |                |      |     |
| 摩擦音 | 無声 |    |                | f   |                | s, ɕ   |                 | (ɕ)            | x              |      | h   |
|     | 有声 |    |                |     |                | z      |                 |                | ɣ              |      |     |
| 半母音 | 有声 |    | w              | v   |                | (l, r) |                 | y              |                |      |     |

### 3. 鼻音化を表す二つの記号（ティッピー ◌̃, ビンディー ◌̣）

鼻音化を表す記号であるティッピー  $\overset{\circ}{\text{}}^{\circ}$  とビンディー  $\overset{\circ}{\text{}}^{\circ}$  は、その母音・子音が鼻音であることを表す。つまりこの記号には、記号が付いた母音の鼻母音としての発音を表す用法と、直後の子音と同じ調音点（発音する際の舌の位置）の鼻子音を表す用法の二つがある。以下、ティッピーとビンディーが、鼻母音化を表す場合を転写記号  $\sim$  で示し、鼻子音を示す場合はそれぞれの鼻子音の転写記号 ( $\dot{\text{n}}$ ,  $\tilde{\text{n}}$ ,  $\text{n}$ ,  $\text{n}$ ,  $\text{m}$ ) に置き換えて示した。

ティツピーとビンディーの付いた母音字が鼻母音を表す場合

|           |          |          |          |          |
|-----------|----------|----------|----------|----------|
| ਅੰ    ā   | ਇੰ    ī  | ਉੰ    ū  | ਏੰ    ē  | ਓੰ    ō  |
| ਅਾਂ    ā̃ | ਈਂ    ī̃ | ਊਂ    ū̃ | ਐਂ    āī | ਐਂ    āū |

ティツピーとビンディーの付いた母音記号が鼻母音を表す場合

ティツピー    ੰ と ビンディー    ੱ が付いた鼻母音の転写記号を、子音字    ਕ(k) に付く例で具体的に示す.

|           |           |           |            |            |
|-----------|-----------|-----------|------------|------------|
| ਕੰ    kā  | ਕਿੰ    kī | ਕੁੰ    kū | ਕੇੰ    kē  | ਕੌ    kō   |
| ਕਾਂ    kã | ਕੀਂ    kĩ | ਕੂਂ    kũ | ਕੈਂ    kãī | ਕੌਂ    kãū |

ティツピーが鼻子音を表す場合

ティツピー    ੰ が、直後の子音と同じ調音点の鼻子音を表す用法を、5種の鼻子音 (ṅ, ñ, ṇ, n, m) になる例について、それぞれ具体的な単語によって示す.

|                 |                |
|-----------------|----------------|
| ਰੰਗ    /raṅgə/  | ਬੰਦ    /bandə/ |
| ਪੰਜ    /pañjə/  | ਅੰਬ    /ambə/  |
| ਪਿੰਡ    /piṇḍə/ |                |

#### 4. 促音化を表す記号 (アダク    ੱ )

日本語では、促音すなわち「つまる音」を表すために、小さなかな文字「っ」を用いるが、これと同じ働きをするのがアダク(アツダク)である。つまりアダクは、直後の音節の子音を重ねて(重子音として)発音することを示す記号である。発音表記は、この同じ子音字を連続させた表記となる。ただし、有気音を表す子音字の直前にアダクが付いた場合は、連続する子音字のうちの前の子音字は、有気音でない表記となる。例えば、ਇੱਛਾ の転写記号は /ic<sup>h</sup>c<sup>h</sup>ā/ではなく、/icc<sup>h</sup>ā/となる。また、ਦਵੱਈਆ, ਮੁਹੱਈਆ, ਰਵੱਈਆ などいくつかの語では、アダクが子音字の直前でなく母音字    ਈ の直前に付く、ੌਈਆ や ੌਈ などのつづりも用いられる。これは、元は半母音 /y/を表す子音字    ਯ の直前にアダクの付く ੌਯਾ や ੌਯੀ などのつづりであった語で、半母音    ਯਾ /yā/ や    ਯੀ /yī/の部分母音    ਈਆ /iā/や    ਈ /ī/として発音され、母音字でつづられるようになった後も、アダクが慣用的に残ったものと推察される。この場合のアダクは、重子音ではなく母音の前に強勢があることを表す。母音字    ਈ の直前にアダクの付く語は、実際には、アダクのあるつづりとないつづりのどちらもが用いられている。ਦਵਈਆ, ਮੁਹਈਆ, ਰਵਈਆ など、本辞典の見出し語では、アダクのないつづりのみを示した。

## 5. 子音字の付加文字

子音字の下部に付ける付加文字には3種類ある。r, w(v), h の音を表す文字である。いずれも、本来は二つの子音の結合を表記するためのもので、前の子音字はそのままの形で残り、後ろの子音字が小さな付加文字として前の子音字の下に付く方式である。下に付く小さな文字のうち、𐎠 は、左端が丸まって右下に向けて尻尾の伸びたおたまじゃくしのような字形に変わる。𐎡 と 𐎢 は、そのままの形を縮小した字形になる。

子音字 **र (r)** との子音結合, **sra, śra, kra, gra, ṭra, ḍra, tra, dra, pra, fra, bra, mra** は **मू, मू, रू, गू, दू, बू, डू, चू, पू, ङू, घू, हू** のように表記される. また, 子音字 **व (w, v)** との子音結合 **swa (sva), dwa (dva)** は **मू, दू** のように表記される. これらは, 見出し語の配列に際しては, 二つの子音字が並んだつづり, **मव, मव, कव, गव, टव, डव, उव, चव, यव, ङव, घव, भव, मव, चव** と同列に扱う. このことからわかるように, 付加文字を用いるつづりは, 付加文字を用いずに二つの子音字を並べたつづりの異つづりとして, 同一語を表す. 本来, 付加文字を用いるつづりは, 潜在母音 **a** を介さない二つの子音の結合 **sr, śr, kr, gr, ṭr, ḍr, tr, dr, pr, fr, br, mr, sw(sv), dw(dv)** を表し, 子音結合であることを意識した発音では, つづりに則した発音がなされる. しかし, 子音結合を意識しない発音では, 母音を介した **sar, śar, kar, gar, ṭar, ḍar, tar, dar, par, far, bar, mar, saw (sav), daw (dav)** という発音がなされる. 本辞典の発音表記では, 子音結合としての発音をまず示し, その横の ( ) 内に母音を介した発音を示した.

子音字 **ɣ** (**h**) との子音結合は, **ɣɣ**, **ɣɣ̥**, **ɣɣ̥̥**, **ɣɣ̥̥̥**, **ɣɣ̥̥̥̥**, **ɣɣ̥̥̥̥̥**, **ɣɣ̥̥̥̥̥̥** のように表記される. **ɣ** を縮小した付加文字の付いたこの表記では, 子音 **h** の音は消失し, 声調を伴う発音になる (「1. 声調と, 発音されない潜在母音 **a**」を参照).

## 6. 子音字 ㄎ との子音結合

子音字 **ਯ (y)**との子音結合は、下部に付加文字を付ける方式でなく、後ろの子音字 **ਯ** の左端の部分が消えた字形 **ਜ** を右に並べる。付加文字の付く3種の子音結合の場合と同じく、前の子音字はそのままの形で残る。ਮਜ, ਹਜ, ਖਜ, ਗਜ, ਜਜ, ਤਜ, ਠਜ, ਪਜ, ਬਜ, ਵਜ などのつづりがその例で、それぞれ子音結合 **śy, hy, xy, gy, jy, ty, ny, py, by, wy(vy)**を表す。rやw(v)との子音結合の場合と同じく、子音結合を意識しない発音では、母音 **a** を介した発音となる。

### III. 合成語・派生語

既出の見出し語どうしが結合して別の一語を形成した合成語は、既出の見出し語の項目の中に含め ☐ を付けて示すか、または別個の見出しを立てた. 前者の場合には語義のみを示し、品詞や発音の情報は示さない.

既出の見出し語に接尾辞や接頭辞が結合して別の一語を形成した派生語については、別個の見出しを立てた。

## IV. 品 詞

品詞名は、英語の名称の略語を用いて表示した。

|              |                        |             |     |               |     |
|--------------|------------------------|-------------|-----|---------------|-----|
| <i>m.</i>    | 男性名詞                   | <i>vi.</i>  | 自動詞 | <i>conj.</i>  | 接続詞 |
| <i>f.</i>    | 女性名詞                   | <i>vt.</i>  | 他動詞 | <i>pref.</i>  | 接頭辞 |
| <i>m. f.</i> | 両性名詞<br>〈男女両性で使用される名詞〉 | <i>adj.</i> | 形容詞 | <i>suff.</i>  | 接尾辞 |
|              |                        | <i>adv.</i> | 副詞  | <i>prep.</i>  | 前置詞 |
| <i>pron.</i> | 代名詞                    | <i>int.</i> | 間投詞 | <i>postp.</i> | 後置詞 |

\*整数に限り、下記のように数詞の表示を付した。ただし、0(ゼロ)・分数・小数は数詞としては表示せず名詞・形容詞の範囲の表示にとどめた。例えば、**तिहाई**「3分の1」には女性名詞、**चाही**「2と2分の1の」「2. 5の」には形容詞の表示を付した。

*ca.num.* 基数詞 (*cardinal numeral*)

*or.num.* 序数詞 (*ordinal numeral*)

\*男性名詞・女性名詞としての数詞には、下記のように男性 (*m.*)・女性 (*f.*) の表示を加えた。

*ca.num.(m.)* 基数詞(男性名詞)      *ca.num.(f.)* 基数詞(女性名詞)

## V. 語 義

## 1. 語義区分

語義の区分には **1, 2, 3, …** などの数字を用い、各区分の中ではカンマ( , )を用いて区分した。

## 2. 成句・例文

成句と例文は ☐ を付けて示した。

## 3. 異つづり語・類義語・対義語

パンジャービー語では標準形がいまだ整備の途上にあるため、同じ語の表記に様々な異なるつづりが使われている。辞典の有用性を高めるため、これらの同語源・同義の異つづり語 (*variant*) もできるだけ多く見出し語として立てた。見出し語の ▶ の後に、同語源・同義の異つづり語を示した。同語源・同義の異つづり語に限らず、空見出しの場合は、→ の後に実際に語義が解説されている見出し語を示した。⇒ の後には異語源の類義語 (*synonym*) を、⇔ の後には対義語 (*antonym*) を示した。

## 4. 《 》の解説

見出し語についての音韻、文法、百科的事項などの解説は、語義の前後に置いた《 》内に示した。《 》内の → は、その見出し語の項目に解説があることを示す。

## 5. 語義の分野・範疇の表示（五十音順）

|             |                    |                       |                       |
|-------------|--------------------|-----------------------|-----------------------|
| 【医】 病名・症状など | 【経済】               | 【数量】 数量単位             | 【乗物】                  |
| 【イス】 イスラーム  | 【言】 言語学            | 【姓】 氏姓・種姓・カースト集団など    | 【履物】                  |
| 【衣服】        | 【建築】               |                       | 【ヒ】 ヒンドゥー教            |
| 【飲料】        | 【鉱物】               | 【政治】                  | 【武】 武術・武具・武器など        |
| 【音】 音声学     | 【国名】               | 【生物】                  | 【符号】                  |
| 【音楽】        | 【暦】                | 【生理】 生理現象             | 【仏】 仏教                |
| 【化学】        | 【祭礼】               | 【装】 装身具               | 【物理】                  |
| 【家具】        | 【魚】 魚介類            | 【ゾロ】 ゾロアスター教          | 【舞踊】                  |
| 【河川】        | 【時間】 時間の単位         | 【地名】 都市・州など           | 【文学】 文学史・詩学・<br>修辞学など |
| 【貨単】 貨幣単位   | 【ジャ】 ジャイナ教         | 【調】 調理器具              |                       |
| 【楽器】        | 【社会】               | 【地理】                  | 【法】 法律・司法関係           |
| 【貨幣】        | 【重量】 重量の単位         | 【電圧】 電圧の単位            | 【枚数】 枚数の単位            |
| 【玩具】        | 【食品】 食材・菓子など       | 【電算】 パソコン用語など         | 【麻薬】                  |
| 【キ】 キリスト教   | 【植物】               | 【天文】                  | 【虫】                   |
| 【幾何】        | 【食器】               | 【電力】 電力の単位            | 【面積】 面積の単位            |
| 【機械】        | 【飼料】               | 【道具】 用具も含む            | 【文字】                  |
| 【器具】        | 【寝具】               | 【動物】 爬虫類・両生類<br>なども含む | 【薬剤】                  |
| 【気象】        | 【親族】 親族名称・姻戚<br>関係 | 【鳥】                   | 【遊戯】                  |
| 【競技】        |                    | 【長さ】 長さの単位            | 【遊具】                  |
| 【距離】 距離の単位  | 【身体】               | 【布地】                  | 【容器】                  |
| 【儀礼】        | 【人名】               | 【熱量】 熱量の単位            | 【容量】 容量の単位            |
| 【金属】        | 【スイ】 スイック教         | 【農業】                  | 【料理】                  |
| 【軍】 軍事      | 【数学】               |                       | 【歴史】                  |

## 6. 文体上の特質など、スピーチ・レーベルの表示（五十音順）

|       |                              |
|-------|------------------------------|
| 【擬声語】 | 物の音響・音声や生き物の声などをまねて作った語      |
| 【口語】  | 主に談話体の中で用いられる語形または表現         |
| 【詩語】  | 詩や美文調の書き言葉で用いられる表現           |
| 【親愛語】 | 愛情をこめて使う語形                   |
| 【俗語】  | 奇抜さや特殊な効果をねらった、標準的とは認められない表現 |
| 【罵言】  | 相手を誹謗する罵りの言葉                 |
| 【比喩】  | 字義から発展し、これと相似したものにとえた表現      |
| 【幼児語】 | 幼児の発音に従った語形                  |

## VI. 語源情報の表示

語源に関連する他言語の名称を、発音表記の後の[ ]内に下記の略語で示した。語源的に関連があると推定される他言語の語形は、言語名の略語とともに[ ]に示した。その際には、主としてインドのパンジャール州言語局刊行の『パンジャール語辞典』(全6巻) *ਪੰਜਾਬੀ ਕੋਸ਼ (I - VI)*, ਭਾਸ਼ਾ ਵਿਭਾਗ ਪੰਜਾਬ, ਪਟਿਆਲਾ, (1955-1983) に依拠した。とはいえ、必ずしも適切な語形が示されているとは限らないため、これは語源の記述というよりも、一つの参考情報と考えていただきたい。『パンジャール語辞典』では、語源と推定される語形を表記する文字が各巻で異なり、統一されていない。本辞典では、サンスクリット語やプラークリット語などにはデーヴァナーガリー文字を、アラビア語やペルシア語などについては John T. Platts, *A Dictionary of Urdu, Classical Hindi, and English*, Oxford University Press, (1884) などを参考にして便宜的な転写記号を用いた。アラビア系の文字で表記されるウルドゥー語では発音上区別しないもの、例えば, ت と ط は [t] で, ح と ه は [h] で示した。不完全な表記ではあるが、見出し語ではすべて ک [k] と表記されてしまっていて表面には現れない、語源上の ک [k] と ق [q] の区別などを確認する程度の役には立つかもしれない。ع には [ʿ] を、また ه には [h] の記号を用いた。英語を中心とする西欧諸言語からの借用語は、その原語でのつづりを示した。

なお、語源に関連して語を構成要素に分解して示す場合は、各要素の間に+を挟んだ。ただし、接辞(接頭辞・接尾辞)には、+ではなく - (ハイフン)を用いた。接辞との結び付きが特に強い語は、要素に分解せずにそのままの形を示した場合がある。

+または - から後の部分のみを示した表記は、重複を避けて共通部分を省略したものである。省略された前の部分は、上に遡った見出し語の[ ]の中にある。

### 〈言語名の略語〉(アルファベット順)

|       |           |       |         |         |          |
|-------|-----------|-------|---------|---------|----------|
| Apb.  | アパブランシャ語  | Heb.  | ヘブライ語   | Pkt.    | プラークリット語 |
| Arab. | アラビア語     | Hin.  | ヒンディー語  | Portug. | ポルトガル語   |
| Ass.  | アッサム語     | Jap.  | 日本語     | Sind.   | スインディー語  |
| Ben.  | ベンガル語     | Kash. | カシュミール語 | Skt.    | サンスクリット語 |
| Chin. | 中国語       | Lat.  | ラテン語    | Spa.    | スペイン語    |
| Eng.  | 英語        | Mar.  | マラーティー語 | Tam.    | タミル語     |
| Fre.  | フランス語     | Nep.  | ネパール語   | Tel.    | テルグ語     |
| Ger.  | ドイツ語      | Ori.  | オリヤー語   | Tib.    | チベット語    |
| Grk.  | ギリシア語     | Pal.  | パリー語    | Turk.   | トルコ語     |
| Guj.  | グジャラーティー語 | Pers. | ペルシア語   | Urd.    | ウルドゥー語   |

〈その他の略語〉 cf. …を参照せよ      bf. …からの借用

## VII. 方言の表示

本辞典では、パンジャープ州言語局刊行の『パンジャービー語辞典』(VI. を参照)に見出し語として名称が記されている下記の方言を収録した。ただし、この辞典が見出しに取り上げている方言がパンジャービー語のすべての方言というわけではない。ラェーンディーは西部パンジャービー語方言群を包括する総称で、ポートーハーリー方言やムルターニー方言を含んでいる。また、バーングルー方言とブラジ・バーシャーは西部ヒンディー語に属するが、パンジャービー語と密接な関係にあるため加えられている。

方言名の略語も、言語名の略語と同じく、各見出しの後の[ ]内に示した。ただし方言名の略語は、言語名の略語と区別するために、( ) 付きで示した。方言名が表示されている場合は、見出し語がその方言に固有の語形であることを意味している。各方言そのものについての解説は、方言名の略語の次に示したつづりを見出し語とする項目に置いた。

## 〈方言名の略語〉(アルファベット順)

|         |                   |                                                  |
|---------|-------------------|--------------------------------------------------|
| (Ban.)  | ਬਾਂਗਰੂ            | バーングルー方言                                         |
| (Braj.) | ਬ੍ਰਜ ਭਾਸ਼ਾ        | ブラジ・バーシャー(ブラジュ・バーシャー)                            |
| (Dua.)  | ਦੁਆਬੀ ( ਦੋਆਬੀ )   | ドゥアービー(ドーアービー)方言                                 |
| (Jat.)  | ਜਟਕੀ              | ジャタキー(ジャトキー)方言                                   |
| (Kang.) | ਕਾਂਗੜੀ            | カーンガリー方言                                         |
| (Lah.)  | ਲਹਿੰਦੀ            | ラェーンディー(ラーンダー, ラフンダー)語・方言群<br>《西部パンジャービー語方言群の総称》 |
| (Maj.)  | ਮਾਝੀ              | マージー方言                                           |
| (Mal.)  | ਮਲਵਈ              | マルワイー方言                                          |
| (Mul.)  | ਮੁਲਤਾਨੀ           | ムルターニー方言                                         |
| (Pah.)  | ਪਹਾੜੀ             | パハーリー方言                                          |
| (Pot.)  | ਪੋਠੋਹਾਰੀ          | ポートーハーリー方言                                       |
| (Pua.)  | ਪ੍ਰਆਧੀ ( ਪੋਵਾਧੀ ) | プアーディー(ポーワーディー)方言                                |

## VIII. 資料と主要参考文献

本辞典の編纂・記述に当たっては、主に下記の文献を参照した。下記の文献には記載されていない新しい借用語などの収集や、わずかながら取り入れた用例などの収集に当たっては、主にパンジャービー語の初等教育用教科書、書籍、種々の新聞・雑誌・Web などの記事を資料として活用した。グルムキー文字表記のパンジャービー語の文献については、その発音表記と〔日本語訳表記〕を下に加えた。3種類の表記で一つの文献を示している。

ਹਰਕੀਰਤ ਸਿੰਘ (ਸੰਪਾਦਕ), ਪੰਜਾਬੀ ਸ਼ਬਦ-ਰੂਪ ਤੇ ਸ਼ਬਦ-ਜੋੜ ਕੋਸ਼, ਪੰਜਾਬੀ ਯੂਨੀਵਰਸਿਟੀ ਸ਼ਬਦ-ਜੋੜ ਕੋਸ਼ ਸੈੱਲ, ਪਟਿਆਲਾ, 1988

Harkirat Sîng (sampādak), *Pañjābī Śabad-rūp te Śabad-joṛ Koś*, Pañjābī Yūnīvarsitī Śabad-joṛ Koś saill, Paṭiālā, 1988

[ハルキート・スィング(編), 『パンジャービー語 語形変化正書法辞典』, パンジャービー大学 正書法辞典編纂室, パティアラー, 1988]

ਜੀਤ ਸਿੰਘ ਸੀਤਲ (ਸੁਪਰਵਾਈਜ਼ਰ), ਪੰਜਾਬੀ ਕੋਸ਼ ( I - VI ), ਭਾਸ਼ਾ ਵਿਭਾਗ ਪੰਜਾਬ, ਪਟਿਆਲਾ, 1955-1983

Jīt Sîng Sītal (suparvāizar), *Pañjābī Koś ( I - VI )*, Pāśā Vipāḡ Pañjāb, Paṭiālā, 1955-1983

[ジート・スィング・スィータル(監修), 『パンジャービー語辞典』(全6巻), パンジャーブ州言語局, パティアラー, 1955-1983]

ਤਾਰਨ ਸਿੰਘ, ਸਾਹਿਬ ਸਿੰਘ (ਸੰਪਾਦਕ), ਪੰਜਾਬੀ ਮੁਹਾਵਰਾ ਕੋਸ਼, ਪੰਜਾਬ ਯੂਨੀਵਰਸਿਟੀ ਪਬਲੀਕੇਸ਼ਨ ਬਿਓਰੋ, ਚੰਡੀਗੜ੍ਹ, 1964

Tāran Sîng, Sāhib Sîng (sampādak), *Pañjābī Muhāvarā Koś*, Pañjāb Yūnīvarsitī Pablikeśan Biūro, Caṇḍigār, 1964

[ターラン・スィング, サーヒブ・スィング(編), 『パンジャービー語 慣用句辞典』, パンジャーブ大学出版局, チャンディーガル, 1964]

ਬਲਦੇਵ ਸਿੰਘ ‘ਬੱਦਨ’ (ਸੰਪਾਦਕ), ਨੈਸ਼ਨਲ ਪੰਜਾਬੀ ਕੋਸ਼, ਨੈਸ਼ਨਲ ਬੁਕ ਸ਼ਾਪ, ਦਿੱਲੀ, 2000

Baldev Sîng Baddan (sampādak), *Naiśnal Pañjābī Koś*, Naiśnal Buk Śāp, dillī, 2000

[バルデーヴ・スィング・バッドダン(編), 『ナエーシュナル・パンジャービー語辞典』, ナエーシュナル書店, デリー, 2000]

ਭਾਈ ਕਾਨ੍ਹ ਸਿੰਘ ਨਾਭਾ, ਗੁਰਸ਼ਬਦ ਰਤਨਾਕਰ ਮਹਾਨ ਕੋਸ਼ [Encyclopaedia of Sikh Literature], 1930 (ਨੈਸ਼ਨਲ ਬੁਕ ਸ਼ਾਪ, ਦਿੱਲੀ, 1976 reprint)

Pāi Kān Sîng Nābā, *Gursabad Ratanākar Mahān Koś*, 1930 (Naiśnal Buk Śāp, dillī, 1976 reprint)

[パーイー・カーン・スィング・ナーバー, 『スィック教文学事典』, 1930(ナエーシュナル書店, デリー, 1976 復刻版)]

ਮਹਿਤਾਬ ਸਿੰਘ (ਸੰਗਰਹਿਕਾਰ), *ਪੰਜਾਬੀ ਅਖਾਣ - ਕੋਸ਼*, ਪੰਜਾਬ ਯੂਨੀਵਰਸਿਟੀ ਪਬਲੀਕੇਸ਼ਨ ਬਿਓਰੋ, ਚੰਡੀਗੜ੍ਹ  
 Maîtāb Sīng (saṅgraīkār), *Pañjābī Akḥaṇ-Koś*, Pañjāb Yūnīvarsitī Pablikeśan Biūro,  
 Caṇḍigār

[マエーターブ・スィング(編), 『パンジャールビー語 諺辞典』, パンジャールブ大学出版局, チャン  
 ーガル]

ਵਿਭਾਗੀ ਸਟਾਫ਼ ਦੁਆਰਾ ਸੰਪਾਦਿਤ, *ਅੰਗ੍ਰੇਜ਼ੀ-ਪੰਜਾਬੀ ਪ੍ਰਬੰਧਕੀ ਸ਼ਬਦਾਵਲੀ*, ਭਾਸ਼ਾ ਵਿਭਾਗ ਪੰਜਾਬ, ਪਟਿਆਲਾ,  
 1968

Vipāgī Saṭāf duārā sampādit, *Aṅgrezī - Pañjābī Prabāndakī Śabdāwli*, Pāśā Vipāg Pañjāb,  
 Paṭiālā, 1968

[言語局編集部編, 『英語・パンジャールビー語 行政用語辞典』, パンジャールブ州言語局, パティ  
 ーラー, 1968]

ਵਿਭਾਗੀ ਸਟਾਫ਼ ਦੁਆਰਾ ਸੰਪਾਦਿਤ, *ਹਿੰਦੀ-ਪੰਜਾਬੀ ਕੋਸ਼*, ਭਾਸ਼ਾ ਵਿਭਾਗ ਪੰਜਾਬ, ਪਟਿਆਲਾ, 1953

Vipāgī Saṭāf duārā sampādit, *Hindī - Pañjābī Koś*, Pāśā Vipāg Pañjāb, Paṭiālā, 1953

[言語局編集部編, 『ヒンディー語・パンジャールビー語辞典』, パンジャールブ州言語局, パティ  
 ーラー, 1953]

ਵਿਭਾਗੀ ਸਟਾਫ਼ ਦੁਆਰਾ ਸੰਪਾਦਿਤ, *ਪੰਜਾਬੀ-ਹਿੰਦੀ ਕੋਸ਼*, ਭਾਸ਼ਾ ਵਿਭਾਗ ਪੰਜਾਬ, ਪਟਿਆਲਾ, 1974

Vipāgī Saṭāf duārā sampādit, *Pañjābī - Hindī Koś*, Pāśā Vipāg Pañjāb, Paṭiālā, 1974

[言語局編集部編, 『パンジャールビー語・ヒンディー語辞典』, パンジャールブ州言語局, パティ  
 ーラー, 1974]

A. Jukes, *A Dictionary of Western Punjabi and English*, Religious Book and Tract Society,  
 Lahore, 1900 (Language Department Punjab, Patiala, 1961 reprint)

Attar Singh, *English-Punjabi Dictionary*, Punjabi University, Patiala, 1968 (1994 revised  
 print)

B. S. Sandhu, *English-Punjabi Dictionary*, Punjab State University Text-Book Board,  
 Chandigarh, 1982

Gurcharan Singh, Saran Singh, Ravinder Kaur, *Punjabi-English Dictionary*, Singh Brothers,  
 Amritsar, 1954

Gurmukh Singh, *Punjabi-English Dictionary*, Punjabi University, Patiala, 1994 (1999 revised  
 print)

John T. Platts, *A Dictionary of Urdu, Classical Hindi, and English*, Oxford University Press,  
 1884 (1974 reprint)

Krishan Kumar Goswami, *Punjabi-English : English-Punjabi Dictionary*, UBS Publishers,  
 New Delhi, 2000

K. S. Kaang, *Punjabi-Anglo Dictionary*, Bhai Chatar Singh Jivan Singh, Amritsar, 1994

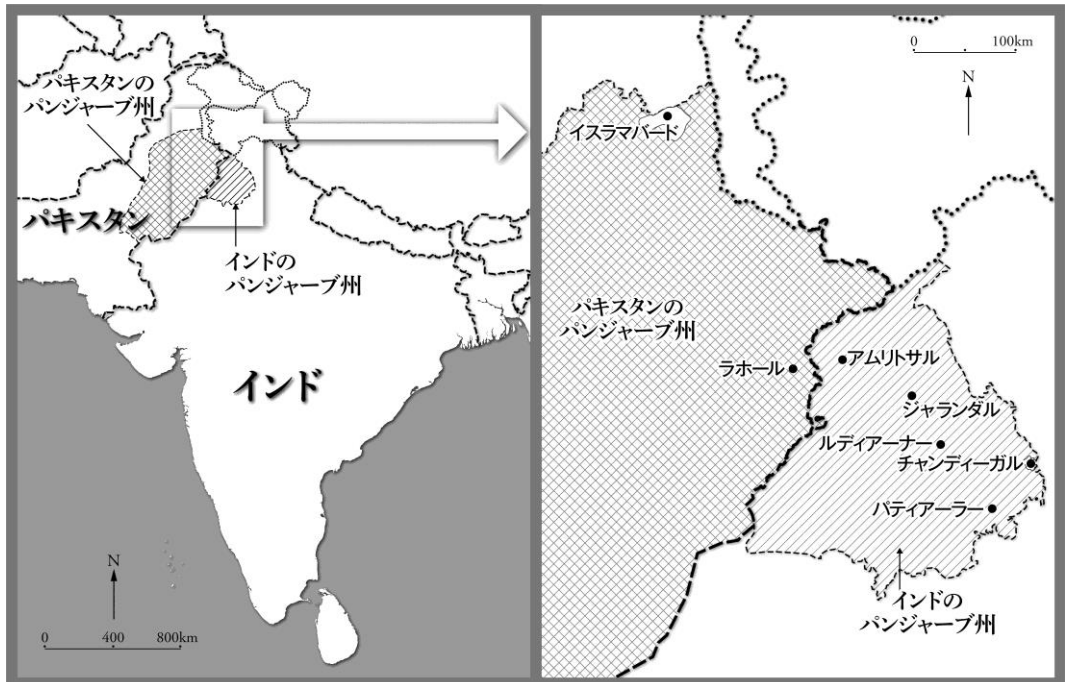
L. Janvier, *Panjabi Dictionary*, Ludhiana Mission, 1854 (Language Department Punjab, Patiala, 1970 reprint)

Maya Singh, *The Panjabi Dictionary*, Lahore, 1895 (Language Department Punjab, Patiala, 1972 reprint)

溝上富夫 編, 『パンジャープ語基礎 1500 語』, 大学書林, 1988

## 目 次

|             |     |             |     |             |     |
|-------------|-----|-------------|-----|-------------|-----|
| ੳ (उ)       | 3   | ਗ ਗ (गग)    | 267 | ਬ (थ)       | 434 |
| ਊ (ऊ)       | 22  | ਘ (घ)       | 293 | ਦ (द)       | 438 |
| ਓ (ओ)       | 23  | ਙ (ङ)       | 300 | ਧ (ध)       | 466 |
| ਅ (अ)       | 24  | ਚ (च)       | 300 | ਨ (न)       | 473 |
| ਆ (आ)       | 64  | ਛ (छ)       | 328 | ਪ (प)       | 510 |
| ਐ (ऐ)       | 74  | ਜ ਜ਼ (ज ज़) | 339 | ਫ ਫ਼ (फ फ़) | 572 |
| ਔ (औ)       | 76  | ੜ (झ)       | 369 | ਬ (ब)       | 587 |
| ਇ (इ)       | 78  | ਵ (व)       | 375 | ਭ (भ)       | 635 |
| ਈ (ई)       | 88  | ਟ (ट)       | 375 | ਮ (म)       | 650 |
| ਏ (ए)       | 89  | ਠ (ठ)       | 385 | ਯ (य)       | 706 |
| ਸ ਸ਼ (स श)  | 90  | ਡ (ड)       | 389 | ਰ (र)       | 710 |
| ਹ (ह)       | 167 | ਢ (ढ)       | 399 | ਲ ਲ਼ (ल ल़) | 739 |
| ਕ ਕ਼ (क क़) | 193 | ਣ (ण)       | 403 | ਵ (व)       | 762 |
| ਖ ਖ਼ (ख ख़) | 248 | ਤ (त)       | 403 | ੜ (ड़)      | 801 |



ਉ /ūrā ੁਰਾ/ *m.* 『文字』 35文字のグルムキー字母表の1番目の文字《3種の母音字 ੁ ੂ ੃ の基となる字形。グルムキーの各文字には名称があり、単独の文字についてもその名称で読み上げる。従って、単独の文字の見出しについても発音要領の参考となる転写記号表記とカタカナ表記は文字の名称となっている。残りの文字についても同様である。各文字の名称のつづりは、それぞれのつづりの見出し語の位置に収められている。 ੁ は唇を丸めて前に突き出して発音する短母音「ウ」。 ੂ は唇を丸めて前に突き出し ੁ 「ウ」よりは少し舌を後ろに引いて発音する長母音「ウー」。 ੃ は唇を丸くし前に突き出して発音する長母音「オー」》。

## ਉ

ਉਸ (उस) /usā | osā ੁਸ | ੋਸ/ ▶ *ਉਸ, ਹੁਸ pron.* 《 ਉਹ の後置格または能格・単数形(複数形は ਉਹਨਾਂ または ਉਨ੍ਹਾਂ) 3人称能格には ਨੇ を伴うが, ਅਪ 「この方」「あの方」以外については, 3人称能格に伴う ਨੇ を省略することができる》あれ, あ, それ, その, あの人, 彼, 彼女, その人。

ਉਸਟ (उशट) /uśaṭa ੁਸ਼ਾਟ/ ▶ *ਉੱਠ, ਉੱਟ, ਉਠ [Skt. उष्ट्र] m.* 『動物』(雄)ラクダ, 牝駱駝。(⇒ਸਾਰ)

ਉਸਟੰਡ (उशटंड) /uśaṭaṇḍa ੁਸ਼ੁਟਾਨਡ/ ▶ *ਅਸਟੰਡ [Eng. stunt] m.* 1 虚偽宣伝, 見せかけ。(⇒ਬੂਠ ਮੂਠ, ਅਡੰਬਰ) 2 詐欺, ごまかし, いんちき。(⇒ਢੋਗ) 3 人をだますこと, 人をたぶらかすこと。

ਉਸਟੰਡੀ (उशटंडी) /uśaṭaṇḍī ੁਸ਼ੁਟਾਨਡੀ/ [-ਈ] *adj.* 1 詐欺の, ぺてんの, いんちきの。 2 人をだます, 人をたぶらかす。

— *m.* 1 詐欺師, ぺてん師。(⇒ਢੋਗੀ) 2 人をだます人, 人をたぶらかす人。

ਉਸਤਤ (उसतत) /usātata ੁਸਾਟਾ/ ▶ *ਉਸਤਤਿ, ਉਸਤਤੀ, ਅਸਤਤ [Skt. स्तुति] f.* 1 称赞, 称揚。 2 賛美, 賛辞。 3 『音楽』聖歌, 賛美歌。 4 推賞, 美化, 評価。

ਉਸਤਤਿ (उसतति) /usātati ੁਸਾਟਾਟੀ/ ▶ *ਉਸਤਤ, ਉਸਤਤੀ, ਅਸਤਤ f.* → ਉਸਤਤ

ਉਸਤਤੀ (उसतती) /usātati ੁਸਾਟਾਟੀ/ ▶ *ਉਸਤਤ, ਉਸਤਤਿ, ਅਸਤਤ f.* → ਉਸਤਤ

ਉਸਤਰਾ (उसतरा) /usātara ੁਸਾਟਾਰਾ/ [Pers. *usturā*] *m.* 1 『道具』剃刀(かみそり)。(⇒ਰੇਜ਼ਰ) □ਉਸਤਰਾ ਫੇਰਨਾ 剃刀を当てる, ひげを剃る, だます。 □ਉਸਤਰਿਆਂ ਦੀ ਮਾਲਾ 剃刀の刃の連なったもの, 危機に瀕した状態, 危ない仕事。 □ਪਿਤਾ ਜੀ ਨੇ ਮੂੰਹ ਤੇ ਬੁਰਸ਼ ਨਾਲ ਸਾਬਣ ਮਲਿਆ ਤੇ ਉਸਤਰਾ ਫੜ ਕੇ ਸ਼ੇਵ ਕਰਨ ਲੱਗੇ। 祖父さんは顔にブラシで石鹸を塗って剃刀を握ってひげを剃り始めました。 2 『比喻』悪賢い人, 狡猾な人。

ਉਸਤਾਕਾਰ (उसताकार) /usātākāra ੁਸਾਟਾਕਾਰ/ *m.* 1

教師, 指導者。(⇒ਉਸਤਾਦ, ਸਿਖਿਅਕ, ਅਧਿਆਪਕ) 2 熟練した人, 専門家。(⇒ਹੁਨਰਮੰਦ, ਮਾਹਰ) 3 師匠, 名手, 名人, 熟練した職人。

ਉਸਤਾਦ (उसताद) /usātādā ੁਸਾਟਾਦ/ [Pers. *ustād*] *m.* 1 教師, 指導者。(⇒ਸਿਖਿਅਕ, ਅਧਿਆਪਕ) 2 師匠, 名手, 名人, 熟練した職人。 3 第一人者, 秀でた人。 4 悪者, したたか者。

ਉਸਤਾਦਗੀ (उसतादगी) /usātādāgī ੁਸਾਟਾਦਗੀ/ [Pers. -gī] *f.* 1 教職。(⇒ਅਧਿਆਪਨ) 2 熟達, 熟練。 3 機敏さ。 4 狡猾。

ਉਸਤਾਦਣੀ (उसतादणी) /usātādāṇī ੁਸਾਟਾਦਣੀ/ ▶ *ਉਸਤਾਦਨੀ, ਉਸਤਾਨੀ [-ਣੀ] f.* 1 女性教師。(⇒ਅਧਿਆਪਕਾ) 2 教師の妻。

ਉਸਤਾਦਨੀ (उसतादनी) /usātādānī ੁਸਾਟਾਦਨੀ/ ▶ *ਉਸਤਾਦਣੀ, ਉਸਤਾਨੀ f.* → ਉਸਤਾਦਣੀ

ਉਸਤਾਦੀ (उसतादी) /usātādī ੁਸਾਟਾਦੀ/ [Pers. *ustād* -ਈ] *f.* 1 教職。(⇒ਅਧਿਆਪਨ) 2 熟達, 熟練。 3 機敏さ。 4 狡猾。 □ਉਸਤਾਦੀ ਕਰਨੀ ਦਾਮਤਸ਼。

ਉਸਤਾਨੀ (उसतानी) /usātānī ੁਸਾਟਾਨੀ/ ▶ *ਉਸਤਾਦਣੀ, ਉਸਤਾਦਨੀ f.* → ਉਸਤਾਦਣੀ

ਉਸਦਾ (उसदा) /usadā | osadā ੁਸਦਾ | ੋਸਦਾ/ ▶ *ਉਹਦਾ, ਓਹਦਾ pron.* 《 ਉਸ ਦਾ の結合形で, 3人称単数代名詞 ਉਹ の属格》あれの, それの, あの人, 彼の, 彼女の。

ਉਸ਼ਨ (उशन) /uśana ੁਸ਼ਾਨ/ [Skt. उष्ण] *adj.* 1 熱い, 熱せられた。(⇒ਤੱਤਾ) 2 激しい, するどい。 3 活発な。

ਉਸ਼ਨਾਕ (उशनाक) /uśanāka ੁਸ਼ੁਨਾਕ/ [Pers. *hošnāk*] *adj.* 1 賢い, 賢明な。 2 聡明な, 知的な。 3 鋭敏な。 4 機知に富んだ。 5 利口な。

ਉਸ਼ਨਾਕੀ (उशनाकी) /uśanāki ੁਸ਼ੁਨਾਕੀ/ [-ਈ] *f.* 1 賢さ, 知恵。 2 聡明さ, 知力。

ਉਸਨੂੰ (उसनुँ) /uśanū | osanū ੁਸਨੂੰ | ੋਸਨੂੰ/ ▶ *ਉਹਨੂੰ pron.* 《 ਉਸ ਨੂੰ の結合形で》あれを, あれに, それを, それに, あの人を, あの人に, 彼を, 彼に, 彼女を, 彼女に。

ਉਸ਼ਬਾ (उशबा) /uśabā ੁਸ਼ੁਬਾ/ [Arab. *uṣba*] *m.* 『植物』サルサバリア《約350種が全世界に分布する熱帯性のつる植物。血液浄化作用に優れ, ヨーロッパでは16世紀に梅毒の治療薬として用いられた》。(⇒ਸਾਰਸਪਰੇਲਾ)

ਉਸ਼ਰ (उशर) /uśara ੁਸ਼ਾਰ/ [Arab. *uṣar*] *m.* 1 割, 10分の1。 2 『経済』十分の一税。(⇒ਦਸਵੰਧ)

ਉਸਰਈਆ (उसरईआ) /usāraīā ੁਸਰਾਈਆ/ [cf. *ਉੱਸਰਨਾ*] *m.* 1 建設者。 2 製造者。 3 創立者。 4 建造者, 建設業者。 5 建築家, 設計者。

ਉੱਸਰਨਾ (उसरना) /ussarānā ੁਸ਼ਰਾਨਾ/ [Skt. *utsarati*] *vi.* 1 建つ, 建設される, 築かれる。(⇒ਇਮਾਰਤ ਬਣਨਾ) 2 作られる。(⇒ਬਣਨਾ) 3 上がる, 上昇する。(⇒ਉੱਪਰ ਨੂੰ ਉੱਠਣਾ) 4 増大する, 増加する, 増強される。(⇒ਵਧਣਾ) 5 成長する, 発展する。(⇒ਉੱਠਤ ਹੋਣਾ)

ਉਸਰਵਾਉਣਾ (उसरवाउणा) /usarāwāuṇā ੁਸ਼ਰਵਾਉਣਾ/ ▶ *ਉੱਸਰਵਾਉਣਾ vt.* → ਉੱਸਰਵਾਉਣਾ

ਉੱਸਰਵਾਉਣਾ (उसरवाउणा) /ussarāwāuṇā ੁਸ਼ਰਵਾਉਣਾ/ ▶ *ਉੱਸਰਵਾਉਣਾ [cf. ਉੱਸਰਨਾ] vt.* 1 建てさせる, 築

## あ行

アーモンド ਬਦਾਮ badāmā バダーム  
 アーンドラ・プラデーシュしゅう『アーンドラ・プラ  
 デーシュ州』ਅੰਧਰਾ ਪ੍ਰਦੇਸ਼ ādarā pradeśa アーンダラ  
 ー プラデーシュ  
 あい『愛』ਪਿਆਰ piārā ピアール, ਪਰੇਮ paremā パレ  
 ーム  
 あいかわらず『相変わらず』ਹਮੇਸ਼ਾਂ hameśā ハメ  
 シヤーン, ਸਦਾ sadā サダー  
 あいきょうのある『愛嬌のある』(明朗快活な)  
 ਖੁਸ਼ਮਿਜ਼ਾਜ਼ xušamizājā クシュミザージ (社交的な)  
 ਮਿਲਾਪਤਾ milāpātā ミラプラー  
 あいこくしん『愛国心』ਦੇਸ਼-ਪਰੇਮ deśa-paremā デー  
 シュ・パレーム, ਵਤਨਪਰਸਤੀ watanāparasatī ワタンパラス  
 ティー  
 あいさつ『挨拶』ਸਲਾਮ salāmā サラーム, ਸੰਬੋਧਨ  
 sambōdhanā サンボーダン, ਸਲੂਟ salūṭa サルート  
 あいじょう『愛情』ਪਿਆਰ piārā ピアール, ਪਰੇਮ  
 paremā パレーム  
 あいず『合図』ਇਸ਼ਾਰਾ isārā イシャーラー, ਸੰਕੇਤ  
 saṅketā サンケート  
 アイスクリューム ਕੁਲਫੀ kulāfī クルフィー  
 あいする『愛する』ਪਿਆਰ ਕਰਨਾ piārā karānā ピア  
 ール カルナー  
 あいそのよい『愛想のよい』ਹਸਮੁਖ hasamukḥā ハ  
 スムク, ਤਰੁਠਵਾਂ taruṭḥawāਂ タルトワーン  
 あいた『空いた』ਖਾਲੀ xālī カーリー  
 あいだ『間』(時間) ਵਕਫਾ wakāfā ワクファー (距離)  
 ਦੂਰੀ dūrī ドゥーリー (空間) ਅਵਕਾਸ਼ awakāśā アウカ  
 ーシュ  
 あいて『相手』(仲間) ਸਾਥੀ sāṭhī サーティー (敵)  
 ਦੁਸ਼ਮਨ duśmanā ドウシュマン  
 アイディア (考え) ਸੋਚ socā ソーチ, ਵਿਚਾਰ vicārā ヴ  
 イチャール, ਖਿਆਲ xialā キアール (思いつき) ਸੁਝ  
 sūjjā スッジ, ਉੱਕਤ ukkatā ウッカト, ਫੁਰਨਾ phurānā プ  
 ルナー  
 あいている『開いている』ਖੁੱਲ੍ਹਾ khūllā クッラー  
 あいている『空いている』ਖਾਲੀ xālī カーリー (自  
 由な) ਫ਼ਾਰਗ਼ fāragḥā フアーラグ  
 あいま『合間』ਵਕਫਾ wakāfā ワクファー  
 あいまいな『曖昧な』ਅਸਪਸ਼ਟ asapaśaṭa アサパシュ  
 ト  
 アイロン ਇਸਤਰੀ isatari イスタリー  
 あう『会う』ਮਿਲਨਾ milānā ミルナー  
 あう『合う』(一致する) ਮੇਲ ਖਾਣਾ melā khānā メー  
 ル カーナー (合わせる) ਮਿਲਨਾ milānā ミルナー (適  
 合する) ਅਨੁਕੂਲ ਹੋਣਾ anukūlā hoṇā アヌクूल ホーナ  
 ー  
 あえぐ『喘ぐ』ਘਰਕਣਾ kārakaṇā カルカナー, ਹਫਣਾ  
 hapḥanā ハハナー, ਹੌਕਣਾ hāūkanā ハォーンカナ  
 ー  
 あお『青』ਨੀਲ nilā ニール

あおい『青い』ਨੀਲā nilā ニーラー (顔色などが)  
 ਰੱਤਹੀਨ rattahina ラットヒーン, ਪੀਲā pīlā ビーラー  
 あおぐ『扇ぐ』ਝੱਲਣਾ cāllanā チャッラナー  
 あおじろい『青白い』ਭੁੱਸਾ pūssā ブッサー  
 あか『赤』ਲਾਲੀ lālī ラーリー  
 あかい『赤い』ਲਾਲ lālā ラール  
 あかくなる『赤くなる』ਲਾਲ ਹੋਣਾ lālā hoṇā ラール  
 ホーナー  
 あかじ『赤字』ਵੱਟਾ-ਖਾਤਾ waṭṭā-kḥātā ワッター・カータ  
 ー  
 あかちゃん『赤ちゃん』ਬੇਬੀ bebi ベービー  
 あかり『明かり』ਰੋਸ਼ਨੀ rośanī ローシュニー, ਚਾਨਣ  
 cānaṇā チャーナン  
 あがる『上がる』(上の方へ行く) ਚੜ੍ਹਨਾ cārānā チ  
 ャルナー (増加する) ਵਧਣਾ wāḍanā ワドナー  
 あかるい『明るい』ਉੱਜਲ ujjalā ウッジャル (性格が)  
 ਰੌਣਕੀ raṇakī ラォーナキ  
 あかワイン『赤ワイン』ਰੈਡ ਵਾਇਨ raidḍā wāina  
 ラエウッド ワーイン  
 あき『空き』(透き間) ਵਿਰਲ viralā ヴィラル (余地)  
 ਅਵਕਾਸ਼ awakāśā アウカーシュ  
 あき『秋』ਸਰਤ śarata シヤト  
 あきびん『空きびん』ਖਾਲੀ ਬੋਤਲ xālī botalā カーリ  
 ー ボータル  
 あきらかな『明らかな』ਸਪਸ਼ਟ sapaśaṭa サパシュト,  
 ਜ਼ਾਹਰ zārahā ザール  
 あきらかに『明らかに』ਬਜ਼ਾਹਰ bazārahā バザール  
 あきらめる『諦める』ਛੱਡਣਾ chḥaḍḍanā チャッダナー  
 あきる『飽きる』ਉਕਤਾਉਣਾ ukatāūṇā ウクターウナー  
 あく『悪』ਬੁਰਾਈ burāī ブラーイー  
 あく『開く』ਖੁੱਲ੍ਹਣਾ khūllanā クッラーナー  
 あく『空く』ਖਾਲੀ ਹੋਣਾ xālī hoṇā カーリー ホーナー  
 あくい『悪意』ਮੰਦਭਾਵਨਾ mandāpāvanā マンドバーヴ  
 ナー  
 あくじ『悪事』ਬਦਾਮਾਸੀ badāmāśī バドマーシー  
 あくじゅ『握手』ਹੈਂਡਸੇਕ hāiḍasekḥā ハェンンドシエーク  
 アクセサリー ਜੇਵਰ zewarā ゼーワル  
 アクセント ਲਹਿਜਾ lajjā ラエージャー, ਸੁਰਾਖਾਤ  
 surākātā スラーカート  
 あくび ਉਬਾਸੀ ubāśī ウバースイー  
 あくま『悪魔』ਸ਼ਤਾਨ śatanā シヤターン, ਦੈਂਤ dāiṭhā ダ  
 ェーント, ਪਿਸ਼ਾਚ piśācā ピシヤーチ  
 あくめい『悪名』ਬਦਾਨਾਮੀ badānāmī バドナーミー,  
 ਖੁਨਾਮੀ khunāmī クナーミー  
 あぐら『胡座』ਚੌਕੜੀ cāūkḥarī ਚਾਓਂਨਕ੍ਰੀ, ਪਥੱਲਾ  
 paṭḥallā パタッラー  
 あけがた『明け方』ਪਰਭਾਤ parābātā パルバート,  
 ਸਾਹਜਰਾ sājarā サージヤラ  
 あける『開ける』ਖੋਲ੍ਹਣਾ khōllanā コーラナー  
 あける『空ける』ਖਾਲੀ ਕਰਨਾ xālī karānā カーリー カ  
 ルナー  
 あげる『上げる』ਚੜ੍ਹਾਉਣਾ carāūṇā ਚਾਚਾਰੂਨਾ  
 (与える) ਦੇਣਾ deṇā デーナー  
 あげる『揚げる』ਤਲਣਾ talānā タルナー